

市川房枝 年譜

西暦	和暦	年齢	月日	年譜事項	関連主要事項
1893	明治26年	0	5.15	愛知県中島郡明地村(現尾西市)の農家の三女に生まれ、「ふさゑ」と命名	
1907	明治40年	14	4	朝日尋常高等小学校卒業	
1908	明治41年	15	3	単身上京、女子学院に入学するが7月帰郷、郷里の小学校で代用教員となる	
1909	明治42年	16	4	愛知県立第二師範学校女子部一年に補欠入学	
1912	明治45年	19	4	新設の県立女子師範学校に移る。新校長の良妻賢母教育に反発、同級生28人とストライキをおこし28カ条の要求書を提出	
1913	大正2年	20	4	女子師範卒業、朝日尋常高等小学校の訓導となる	
1916	大正5年	23	7	弟・武、20歳で死去	
			10	病気休職、知多半島の篠島で闘病生活	
1917	大正6年	24	7	名古屋新聞(現中日新聞)の記者となる	
1918	大正7年	25	1.1		英国婦人参政権実現
			8	新聞社をやめて上京、働きながら兄の友人の山田嘉吉塾で英語を勉強、ここで平塚らいてうと出会う	
1919	大正8年	26	9	「大日本労働総同盟友愛会婦人部」書記に就職、11月辞職	
			11.24	平塚らいてうと「新婦人協会」を創立、治安警察法改正運動をおこす	
1920	大正9年	27	3.28	新婦人協会発会式(上野精養軒)	
			8.28		米国婦人参政権実現
1921	大正10年	28	7	新婦人協会役員を辞任して渡米	
1922	大正11年	29		シカゴ、ニューヨーク滞在、働きながら婦人運動、労働運動を見学	
1923	大正12年	30	6	ワシントンで開かれた「世界社会事業大会」に出席、ここで婦選運動の指導者アリス・ポールを知る	
			9.1		関東大震災
1924	大正13年	31	1	帰国。ILO(国際労働局)東京支局開設、職員となる	
			12.13	「婦人参政権獲得期成同盟会」(翌年「婦選獲得同盟」と改称)創立に参加(会務理事)	
1925	大正14年	32	5.5		普通選挙法公布
			11	婦人問題研究所設立	
1926	大正15年	33	3.-	「国際労働協会婦人委員会」メンバーとして婦人の坑内労働、深夜業禁止のために調査を行う	
1927	昭和2年	34	12	ILO東京支局を辞職、婦選運動に専念する	
1928	昭和3年	35	2.2		最初の男子普通選挙
			3	無産派も含む7団体で「婦選獲得共同委員会」を組織	
			8.9-19	汎太平洋婦人会議(ホノルル)に出席	
1929	昭和4年	36	4.-8.	婦人団体・労働組合とともに「ガス料金供託同盟」を組織、ガス料金値下げ運動を行う	
1930	昭和5年	37	4.27	「第1回全日本婦選大会」を開く(日本青年館)、この大会で与謝野晶子と深尾須磨子の「婦選の歌」(作曲山田耕筰)を発表	

西暦	和暦	年齢	月日	年譜事項	関連主要事項
			5.1		婦人公民権、衆議院で可決
1931	昭和6年	38	7.5	久布白落実に代わり婦選獲得同盟総務理事に就任	
			2.28		婦人公民権衆議院で可決、貴族院で否決
			9.18		満州事変
1932	昭和7年	39	1.22	無産婦人同盟を含む4団体で「婦選団体聯合委員会」を組織、犬養首相を訪問、陳情	
1933	昭和8年	40	3.4	東京市会選挙に際し6団体で「東京婦人市政浄化聯盟」を組織汚職候補追放・ゴミ処理・増税反対運動展開	
			9.4	12団体で「東京卸売市場問題婦人団体協議会」を組織、魚市場の独占阻止運動をおこす	
1934	昭和9年	41	9.29	婦選団体の提唱で「母性保護法制定促進婦人聯盟」(のち母性保護聯盟と改称)を結成、母子扶助法・家事調停法の制定運動をおこす	
1935	昭和10年	42	5.14	父・藤九郎、88歳で死去	
			8.7	35団体で「選挙肅正婦人联合会」を組織	
1937	昭和12年	44	1.24	第7回全日本婦選大会(主催4団体、後援22団体)最終回	
			9.28	戦時生活に対処するため自主的8婦人団体で「日本婦人団体聯盟」を組織	
1939	昭和14年	46	2.18	「婦人時局研究会」発足	
			3.17		人事調停法公布
			9.1		第二次世界大戦開戦
			12.13	婦選獲得同盟創立15周年を記念して婦人問題研究所を再建	
1940	昭和15年	47	9.21	婦選獲得同盟、臨時総会で解消を決定、婦人時局研究会に合流を決める	
			10.19	婦人時局研究会の新方針と新役員を決定、幹事長に就任	
1941	昭和16年	48	10.1	母・たつ、82歳で死去	
			12.8		太平洋戦争開戦
1942	昭和17年	49	2.2	大日本婦人会発会	
			12.23	台湾旅行中「大日本言論報国会」の理事に加えられる	
1944	昭和19年	51	6	都下川口村(現八王子市)に疎開	
			7	「婦人年報第1輯婦人界の動向」出版	
1945	昭和20年	52	4.13	婦人問題研究所と市川自宅(四谷見附)空襲で全焼	
			8.6・9		広島・長崎に原爆
			8.15		敗戦で戦争おわる
			8.25	婦人活動家に呼びかけ「戦後対策婦人委員会」結成、政府・政党に婦選を要求	
			11.3	「新日本婦人同盟」創立、会長に就任(京橋に仮事務所)	
			11.21		勅令で「治安警察法」廃止、婦人の政党加入(結社権)自由となる
			12.17		「衆議院議員選挙法」改正、婦人参政権実現
			12.19	「婦選会館」建設をよびかけ建設委員会を設置	
				理科学研究所企画映画「婦人平等へ」制作に協力、出演	

西暦	和暦	年齢	月日	年譜事項	関連主要事項
1946	昭和21年	53	4.1	戦後初の総選挙、婦人参政権初行使なるも選挙人名簿に記載もれで投票できず	
			4.25	初当選の婦人議員39名の「婦人議員クラブ」結成に尽力、事務所を婦選会館におく	
			9.27		地方制度の改正で 婦人公民権実現
			11.3		日本国憲法公布
			12.8-9	婦選会館(婦人問題研究所所有)竣工記念婦選展覧会開催	
1947	昭和22年	54	3.24	大日本言論報国会理事であったことが理由で公職追放となり、新日本婦人同盟会長を辞任 追放取消請求運動ひろがる	
1949	昭和24年	56	4.1	第2回「婦人の日大会」で、平塚らいてう・塚ためとともに婦選運動の功労者として感謝状と記念品をもらう	
1950	昭和25年	57	10.13	追放解除	
			11.19	新日本婦人同盟臨時総会で会名を「日本婦人有権者同盟」と改称、会長に復帰	
1951	昭和26年	58	9.8		サンフランシスコ平和条約、 日米安保条約調印
			11.2	「公娼制度復活反対協議会」を結成、売春禁止運動をおこす	
			12.22	平塚らいてう・上代たのらと「再軍備反対婦人委員会」を結成	
1952	昭和27年	59	6.4	「公明選挙連盟」結成に参加	
			10	日米知的交流委員会の招待で渡米、欧州へ回る	
1953	昭和28年	60	4.25	第3回参議院議員選挙に東京地方区から「理想選挙」で立候補、2位当選、同盟会長を辞任	
			11.28	「衆参婦人議員団」を結成、超党派で売春禁止法制定に努力	
1954	昭和29年	61	3.3	長谷部ひろと連名で連座制強化の選挙法改正案を提出	
1955	昭和30年	62	3.3	兄・藤市、74歳で死去	
			6.3		「婦人参政権条約」 国会で承認
			8.25	「婦人参政10周年記念行事実行委員会」(委員長市川)を組織、翌年4月にかけて各種行事を行う(旧婦選運動者懇談会、婦人参政10周年記念大会、全日本婦人議員大会、政治と暮らし展覧会)	
1956	昭和31年	63	5.24		「売春防止法」公布
			12.18		日本、国際連合に加盟
1957	昭和32年	64	4.1	「婦人団体国会活動連絡委員会」組織(6団体)	
			8.1	「国連NGO国内婦人委員会」組織(6団体)	
1958	昭和33年	65	4.1	「第1回婦選会議」(日比谷図書館)	
			4.11		「人身売買及び他人の売春 からの搾取の禁止に関する 条約」国会で承認
			8.21-30	第8回「汎太平洋東南アジア婦人会議」(東京)開催に尽力	
			10.31	社会教育法改悪(婦人団体に補助金)反対運動を組織	
1959	昭和34年	66	6.2	第5回参院選東京地方区で再選(2位)	

西暦	和暦	年齢	月日	年譜事項	関連主要事項
			9.25	英国総選挙視察のため訪英、帰途フランス、イタリア、西ドイツ、インドで売春問題を調査、11月帰国	
			11.28	「理想選挙普及会」結成	
1960	昭和35年	67	2.3	婦選会館増改築のため建設委員会設置	
			12	選挙費用および政治資金の調査をはじめ	
1961	昭和36年	68	6.1		衆参婦人議員提出の “よっばらい取締法”公布
			6.7	奥むめお・赤松常子とともに売春防止法改正案を提出	
			6.12-15	衆参議員団の沖縄視察に参加	
1962	昭和37年	69	5.13	日本婦人有権者同盟会長に就任(3度目)	
			11.2	婦選会館完成、婦人問題研究所を解消、「財団法人婦選会館」を設立。婦選会館開館式(11.15)	
1963	昭和38年	70	8.26-10.12	参議院の欧米視察団に参加	
1964	昭和39年	71	12.27	「富士茂子の再審を求める会」を組織、支援	
1965	昭和40年	72	4.12	北ベトナム爆撃反対をライシャワー駐日米大使に陳情(6団体)	
			7.4	第7回参院選東京地方区で3選(4位)	
			10.15	政府主催「国民参政75周年・普通選挙40周年・婦人参政20周年記念式典」(日本武道館)で特別顕彰	
1966	昭和41年	73	12.5	中野好夫・長谷部忠らと「政治資金規正協議会」結成	
1967	昭和42年	74	3.15	都知事選挙に際し「みのべ氏の理想選挙を支持する会」を結成、革新統一候補を応援	
1970	昭和45年	77	3.28	「新婦人協会創立50周年記念集会・展示会」(婦選会館)	
			4.25	日本婦人有権者同盟会長を辞任、名誉会長となる	
			10.13-11.3	国連総会、中間選挙、ウーマン・リブ視察のため渡米	
			12.17	市川のよびかけで22団体共催「婦選獲得25周年記念集会」開催(尾崎記念会館)	
1971	昭和46年	78	6.27	第9回参院選東京地方区で落選	
			11.6	理想選挙普及会を改組、「理想選挙推進市民の会」を結成	
1972	昭和47年	79	5.15		沖縄復帰
			8.5	「私の政治小論」「私の婦人運動」出版	
1973	昭和48年	80	1.16	朝日賞受賞	
			1.22	「売春問題ととりくむ会」結成(代表委員の一人)	
1974	昭和49年	81	1.26	「家庭科の男女共修をすすめる会」結成(発起人)	
			7.7	第10回参院選全国区で2位当選	
			8.29-9.3	マグサイサイ賞受賞のためフィリピン・マニラに旅行。賞金の1万ドルで「市川青年基金」を設立、日比青年の交流に充てる	
			9.1	「市川房枝自伝前編」出版	
			12.13-14	「婦選獲得同盟創立50周年記念集会・講演会・展示会」開催(婦選会館)。「婦選獲得同盟16年小史」出版	

西暦	和暦	年齢	月日	年譜事項	関連主要事項
1975	昭和50年	82			国際婦人年
			6.18	参議院本会議で「国際婦人年にあたり婦人の地位向上をはかる決議」の提案理由説明	
			11.15	政府主催「国際婦人年記念日本婦人問題会議」で祝辞	
			11.22	「国際婦人年日本大会」(41団体、共立講堂、実行委員長)	
1976	昭和51年	83	2.19-21	「全国無所属婦人議員研究集会」開催(婦選会館他、実行委員長)	
			3.6-20	ロッキード疑獄調査のため渡米	
			4.1	「婦人参政権行使30周年記念大会」開催(47団体、共立講堂、実行委員長)	
			7.8	「民主政治をたてなおす市民センター」開設(代表者)	
			7.27		ロッキード事件で田中角栄元首相逮捕
			11.13	姉・たま、87歳で死去	
			11.25	「私の言いたいこと」出版	
1977	昭和52年	84	6.13-20	イラク婦人連盟の招きでイラク訪問	
			8.15	「日本婦人問題資料集成第2巻政治編」出版	
			10.4-6	友人の「女性百人会館」開館式出席のため韓国訪問	
1978	昭和53年	85	3.29-5.19	国会図書館収録の「政治談話録音」(7時間・30年間非公開)をとる	
			4.11	「国連婦人の10年推進議員連盟」設立に参加	
			7	「市川房枝教室」日本婦人運動史(6回)開講	
			8.15	「日本婦人問題資料集成第1巻人権編」出版	
1979	昭和54年	86	1.8		ダグラス・グラマン汚職発覚
			3.27	労基法改正－女子保護条項廃止のうごきに反対アピール	
			4.1	随想集「だいこんの花」出版	
			5.12	郷里尾西市に「吉藤市川公民館」竣工	
			8.27	「汚職に関係した候補者に投票をしない運動をすすめる会」(ストップ・ザ・汚職議員の会)を結成(17団体、代表世話人)	
			10.1	「近代日本女性史への証言」(共著)出版	
1980	昭和55年	87	5.-7.	自伝映画「87歳の青春」撮影	
			6.16	女子差別撤廃条約署名式(国連婦人の10年中間年世界会議・コペンハーゲン)に日本政府の参加を要請、各界へ働きかけ	
			6.22	第12回参院選全国区で1位当選	
			10.3-13	中華全国婦女連合会の招きで中国訪問	
			11.22	国連婦人の10年中間年日本大会(48団体、日比谷公会堂、実行委員長)	
1981	昭和56年		1.16	心筋こうそくの発作のために日赤医療センターに入院	
			2.11	死去、87歳9カ月	
			2.13	参議院本会議で25年永年在職議員の表彰を受ける	
			2.26	葬儀(青山葬儀所)	
			5.15	富士霊園に埋葬	